

第2回 関東地方河川堤防復旧技術等検討会

議事要旨

(委員からの主な意見)

日時：平成23年6月1日10:00～12:00

場所：中央合同庁舎4号館1F108会議室

【平成23年度出水期に向けた対応について】

- 降雨によるクラックの拡大等の増破が生じた場合には、他の被災箇所においても同様の現象が生じていることが予想される。巡視頻度を例年より増加させて対応しているところであるが、被災箇所数が膨大なこともあり、巡視時に何を重点的に確認するのかという観点から、増破の情報周知を徹底する必要がある。
- 台風来襲が予想される場合におけるシートの設置状況の確認を徹底する必要がある。
- 降雨や余震などによる変形の様子を連続的に計測できれば、少しずつ危険性が増している状況などがわかり、今後の検討の目安になる。

【地震対策に資する知見とりまとめに向けて】

- 被災形態については、基礎地盤の液状化によるものや堤防自体の変形によるもの等に細分化した方が良い。細分化することで効果的な対策工法の選定につながる。
- 緊急的な対応をまとめている事例はなく、今回のように暫定対策で出水期を迎える状況は将来もありえる。その際の参考となることから、しっかりとまとめることが重要。
- 対策工法選定については、単に被災要因タイプだけではなく様々な要因を踏まえて選定されることとなるため、被災タイプ以外の要因を整理しておくことが必要である。
- 出水期間中の経験をよくまとめて是非残して欲しい。
- 堤体の土質区分について、土質構造の微妙な違いなどを表現できるようにする必要がある。
- 平成24年度以降のソフト対策については、地震前のボーリングデータとの比較や過去の被災での情報収集を行った上で分析を行うことが重要。